

1



大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.
のびゆく力、未来へ

70th
anniversary
Since 1941

会社説明会および 2011年11月期 第2四半期決算説明会資料

2011年7月19日



2

はじめに

東日本大震災で被災された皆様へ、
心よりお見舞いを申し上げますとともに、
一日も早い復興をお祈り申し上げます。

大阪有機化学工業株式会社

目次

- I. 2011年11月期第2四半期連結決算 ----- p. 4
- II. 2011年11月期連結業績予想 ----- p.10
- III. 成長戦略・中期事業計画 ----- p.18

I. 2011年11月期第2四半期連結決算

5

業績概要(連結)

(百万円)

	' 10/05	' 11/05	増減	前年比
売上高	10,880	11,478	598	106%
営業利益	1,050	1,032	△18	98%
経常利益	1,048	1,041	△7	99%
当期純利益	728	560	△238	77%

- 売上高: 前年比106%
 - ・自動車塗料関連の輸出増と電子材料用途の増加により、販売増加。
- 営業利益、経常利益: 前年比98%および99%
 - ・経費微増により、前年同期と同水準。

6

セグメント別業績概要(連結)

注) '10/05のセグメント別金額は、セグメント組替えての参考値。
四半期連結決算書の営業利益との調整前金額で表示。

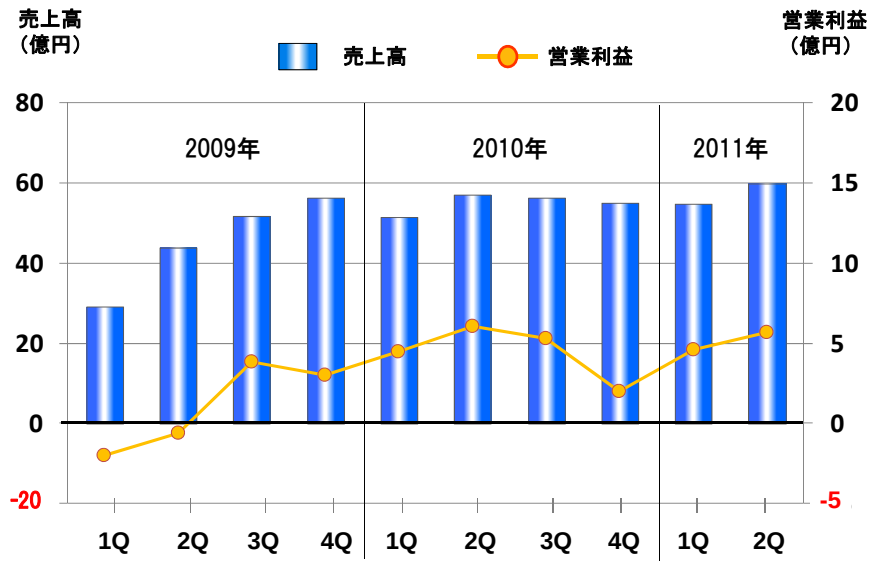
(百万円)

	' 10/05 ^{注)}	' 11/05	増減	前年比
売上高	10,880	11,478	598	106%
化成品事業	5,339	5,844	505	110%
電子材料事業	2,470	2,804	334	114%
機能化学品事業	3,070	2,853	△217	93%
営業利益	1,050	1,032	△18	98%
化成品事業	355	265	△90	75%
電子材料事業	522	546	24	105%
機能化学品事業	172	218	46	127%

- 化成品事業、売上高・営業利益: 前年比110%および75%
 - ・自動車塗料樹脂関連を中心に海外販売が好調に推移し、売上高増。原料費高騰により営業利益減少。
- 電子材料事業、売上高・営業利益: 前年比114%および105%
 - ・液晶パネル関連業界の減速により、表示材料は横ばい。情報端末向け需要が好調で、半導体材料は増加。
- 機能化学品事業、売上高・営業利益: 前年比92%および127%
 - ・一部の受託製品の撤退により売上高は減少したが、収益性改善により、営業利益増加。

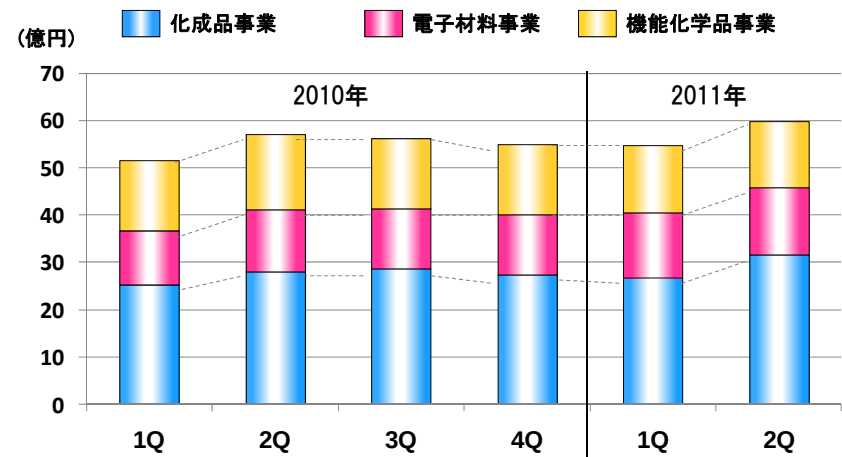
7

売上高と営業利益の四半期推移



8

セグメント別売上高の四半期推移



9

2011年11月期第2四半期 業績まとめ

1. 東日本大震災の影響は少なく堅調に推移
2. 自動車塗料樹脂関連の輸出と情報端末向け電子材料および収益力改善が牽引

10

II. 2011年11月期連結業績予想

11

2011年11月期業績予想概要(連結)

(百万円)

	'10/11	'11/11	'11/11 予想修正	増減	前年比
売上高	22,022	23,235	23,487	1,465	107%
営業利益	1,779	1,901	1,939	160	109%
経常利益	1,807	1,882	1,974	167	109%
当期純利益	1,268	1,093	1,115	△153	88%

- 原料・燃料価格の推移と当社グループ製品の市場動向等を踏まえて下期予算の見直しを実施。

12

セグメント分類 <2011年11月期より適用開始>

従来事業部門区分			新セグメント事業区分	
セグメント区分	部門区分	主な事業内容	セグメント区分	主な事業内容
単一事業	エステル化製品	特殊アクリル酸 エステル	化成製品事業	・塗料、粘接着剤、 インキ向け等アクリル酸エステル ・アクリル酸
		酢酸エステル		
	有機合成品	アクリル酸	電子材料 事業	・表示関連材料 ・半導体関連材料
	特殊化学品	電子材料		
		化粧品基材		
		医薬中間体	機能化学品 事業	・化粧品基材 ・医薬中間体向け原材料 ・その他
	その他	その他ファイン 試薬		

13

化成品事業＜実績と予想＞

事業方針 ● 持続成長のための安定収益基盤事業

推移
要因

- <上期>
自動車塗料樹脂関連を中心に
海外販売が好調に推移
- <下期>
海外販売を中心に販売増を見込む

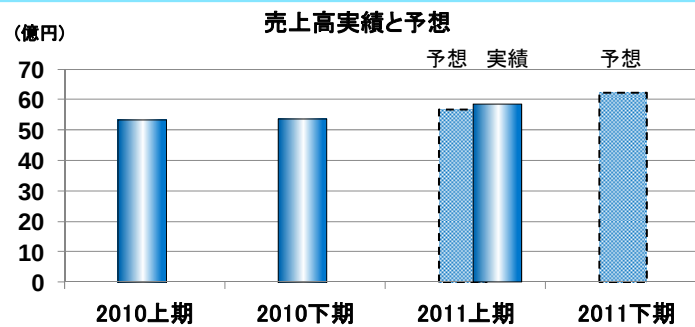


自動車塗料



パソコン

実績
・
予想



14

電子材料事業＜実績と予想＞

事業方針 ● 安定した高収益性確保のための事業

推移
要因

- <上期>
液晶パネル向け材料は微増、
半導体向け材料が伸長
- <下期>
半導体向け材料を中心に増加を見込む

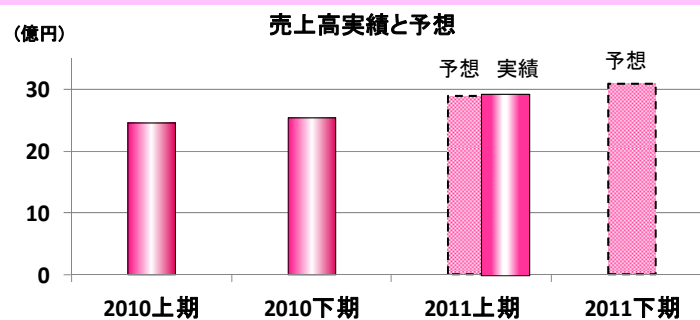


半導体



液晶テレビ

実績
・
予想



15

機能化学品事業＜実績と予想＞

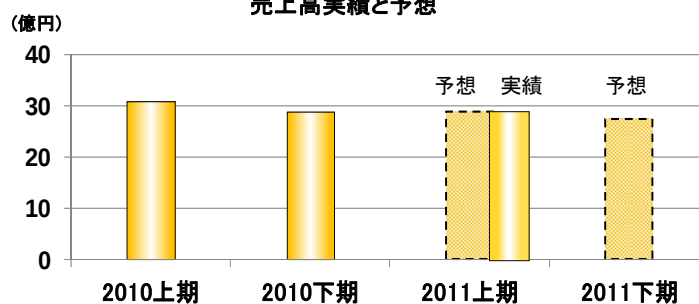
事業方針 ● 次期成長分野育成ための事業

推移
要因

- <上期>
2010年下期と同水準
- <下期>
一部受託製品の撤退により売上高微減を見込む

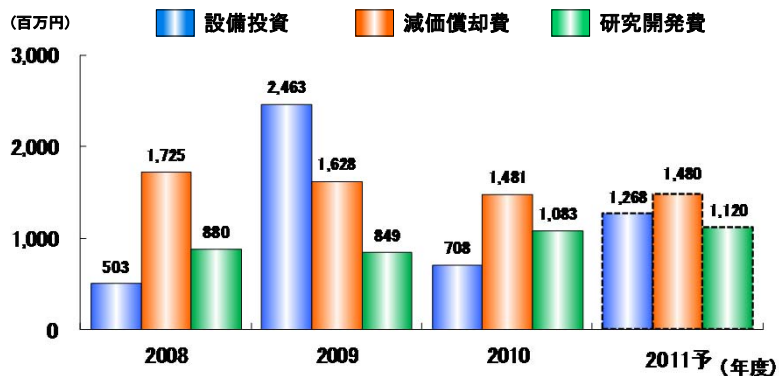
実績
・
予想

売上高実績と予想



16

設備投資・減価償却・研究開発費



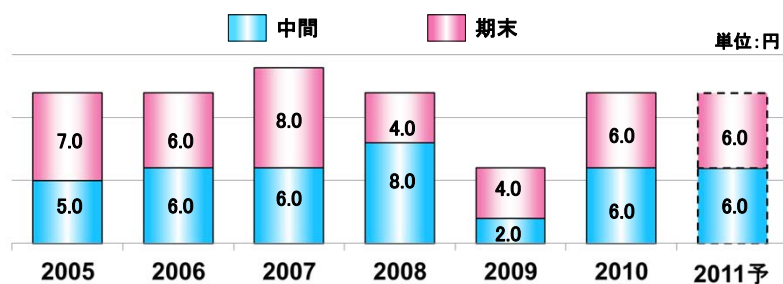
● 主な設備投資案件(2011/11月期)

- ・金沢工場 アクリル酸エステル製造設備(化成品事業生産集約対応)
- ・酒田工場 新規製造設備拡張のためのユーティリティー増強
- ・研究所 分析・試作機器等

17

一株当たり配当金

2011年度 年間配当 12円を予定
(中間配当6円、期末配当6円)



● 利益配分に関する基本方針

配 当 額 : 業績や事業計画に備えた内部留保の充実等を勘案してバランスをとりつつ決定

内部留保 : 将来につながる新製品、新技術へ向けての研究開発投資や生産能力増強、
合理化や高付加価値化へ向けての設備投資等の原資として活用

18

III. 成長戦略・中期事業計画

19

成長戦略の基本軸

選択と集中による持続的な成長力の構築

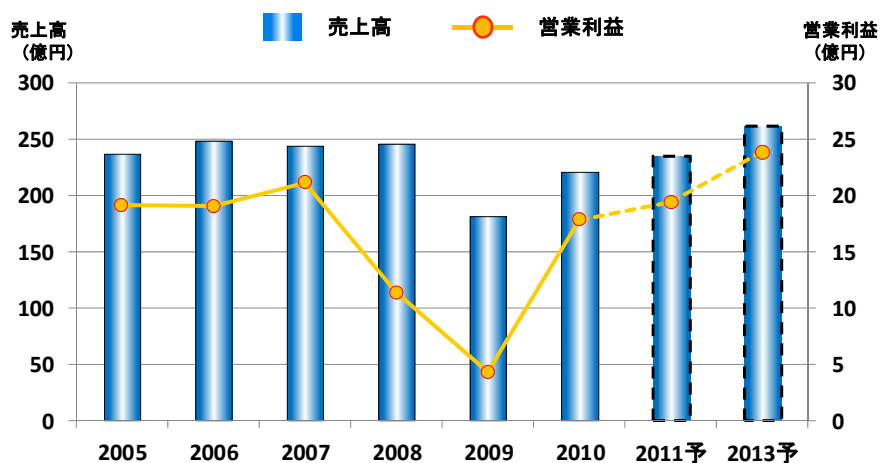
- 新製品開発のための技術力の強化
- 顧客の拡大及びマーケティングの充実
- 品質・コスト競争力の向上

会社の社会的責任の実現と株主価値の向上

- 安全・環境・コンプライアンスの重視
- コーポレートガバナンスの充実
- 財務体質の強化

20

当社グループの状況



21

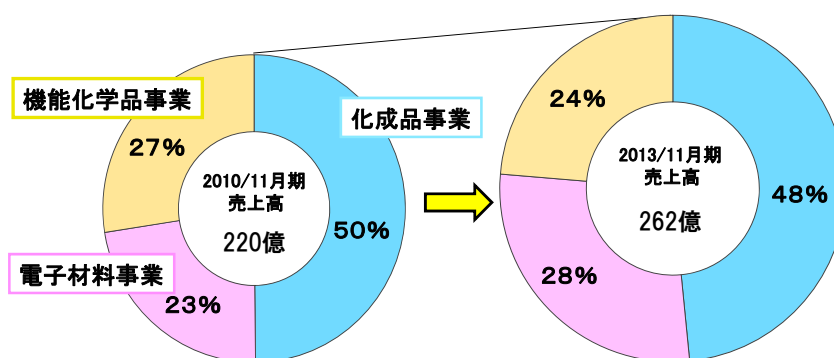
中期事業計画 収益目標(2013/11月期)

(百万円)

	'13/11期目標値		
		'10/11期比	
売上高	26,171	22,022	119%
営業利益	2,381	1,779	134%
経常利益	2,381	1,807	132%
当期純利益	1,391	1,268	110%

22

中期事業計画 収益構造(2013/11月期)



● 中期事業計画の方針

- ・化成品事業の市場拡大
- ・電子材料事業の成長による収益の確保
- ・機能化学品事業の見直しと育成

23

中期事業計画 ＜設備投資・減価償却費・研究開発費＞

	過去3期計 ('08/11～'10/11)	3期累計予想 ('11/11～'13/11)	(億円) 増減
設 備 投 資	37	65	175%
減 価 償 却 費	48	54	112%
研 究 開 発 費	28	35	125%

● 主な設備投資

- ・大阪工場移管に伴う金沢工場・酒田工場への製造設備
- ・新製品の工業化に伴う製造設備
- ・パイロットプラント製造設備・分析機器
- ・福利厚生設備

24

中期事業計画 化成品事業

事業環境

- ・国内産業の景気停滞
- ・市場の中心はアジアへ。販売は海外、製品開発は国内。

中長期の展開

＜事業の強み＞

- ・アクリル酸エステル豊富なラインナップ
- ・アクリル酸エステル製造技術の蓄積

● 海外市場への拡販強化	競争力のある製品をより強く	基盤事業としての強化
● 製造拠点の集約・プロセス改善		
● 用途の多様化	新市場開拓	
● 新製品開発		
● 新規製造プロセスへ		

25

化成品事業＜生産性改善による競争力強化＞



再整備中の大阪工場



化成品事業集約の金沢工場

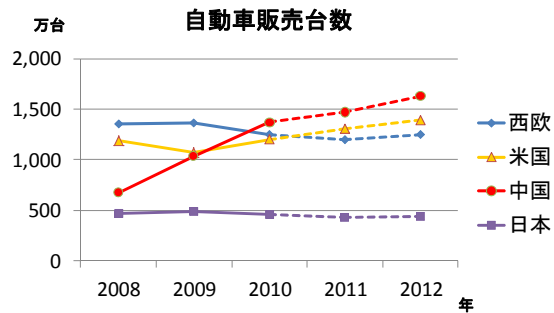
- 金沢・酒田工場への化成品事業製品の集約による生産合理化

大阪工場生産終了予定



26

中期事業計画 ＜自動車塗料用「4-HBA」設備増強＞



中国自動車市場の拡大による需要増の見込み

酒田工場へ2,500トン/年能力の製造設備を建設(投資額:20億円)

工事計画

6月着工

2月完成予定

3月操業開始予定



27

中期事業計画 電子材料事業

事業環境

- ・液晶ディスプレイ、半導体を用いたデバイス生産は韓国、台湾、中国が中心。生産材料は国内。
- ・光(UV)硬化プロセスがキープロセス
- ・市況による変動と短い技術サイクル

中長期の展開

<事業の強み>

- ・光硬化プロセスのキーマテリアルであるアクリル酸エステル、ポリマーの開発から生産を一貫して行える
- ・高度な品質管理実績

● 海外展開強化 マーケティング・技術サポート ● さらなる高品質化 他社との差別化	量的拡大	安定した 高収益確保
● 次世代材料開発 タッチパネル用材料・3DTV材料 ・次世代レジスト材料	市場をリードする材料	

28

中期事業計画 機能化学品事業

事業環境

- ・成熟製品の見直し
- ・化粧品市場はファッションの多様化とアジア圏の購買力向上
- ・酢酸エステル・特殊溶剤は高機能溶剤用途にシフト

中長期の展開

<事業の強み>

- ・機能性アクリルポリマーの設計技術
- ・精密有機合成技術と精製技術

● 化粧品基材・医薬中間体 分野の市場掘り起し	強みを生かした 分野展開	次期成長 分野開拓
● 新規機能材料の開発	新規市場開拓	



31

副生油処理システムの導入(廃棄物の資源化)

2009年11月より稼動開始

化学反応プロセスからの有価金属を含む廃液

従来

産業廃棄物として処理・廃棄

新規

「副生油処理システム」

- ・ボイラーとして蒸気の活用
- ・有価金属の回収
- ・燃焼後の排ガスから熱回収

エネルギー・資源の有効利用

- ・新興ブランテックの新規製品として受注目指す。
- ・2011年プラントショーへ出展
(INCHEM TOKYO2011 in 東京ビックサイト)



・大阪有機化学工業、新興ブランテック、
高尾鉄工所との共同開発による特許化
(特許公報:2008-051431)

32

事業継続計画(BCP; Business Continuity Plan)

大阪有機化学工業株式会社

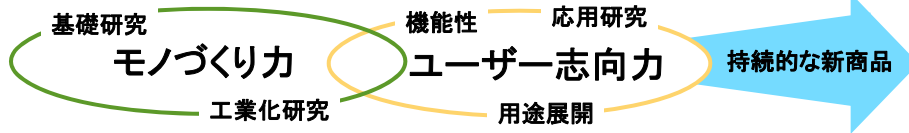


当社グループのBCPを強化

顧客・社会へ貢献

33

研究開発体制の強化



研究および試作設備の拡充



新研究棟を
金沢工場に建設(2009/7月)

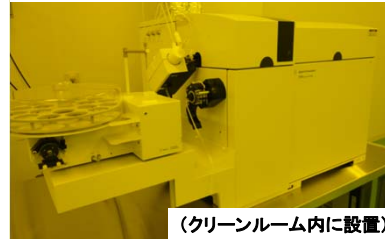


新パイロットプラント設備を金沢工場に建設 (2009/1月)

機能評価・用途展開用分析機器の拡充

ICP-MS

電子材料開発に必須の金属分析装置



(クリーンルーム内に設置)

各種金属元素(例:鉄、ナトリウム)を
1
1兆 濃度 (ppt) まで検出できる分析機器

34

新規開発材料

フリース転移型光配向材料を産学共同で開発

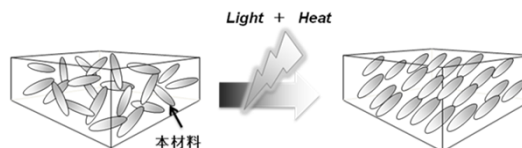
大阪有機化学工業



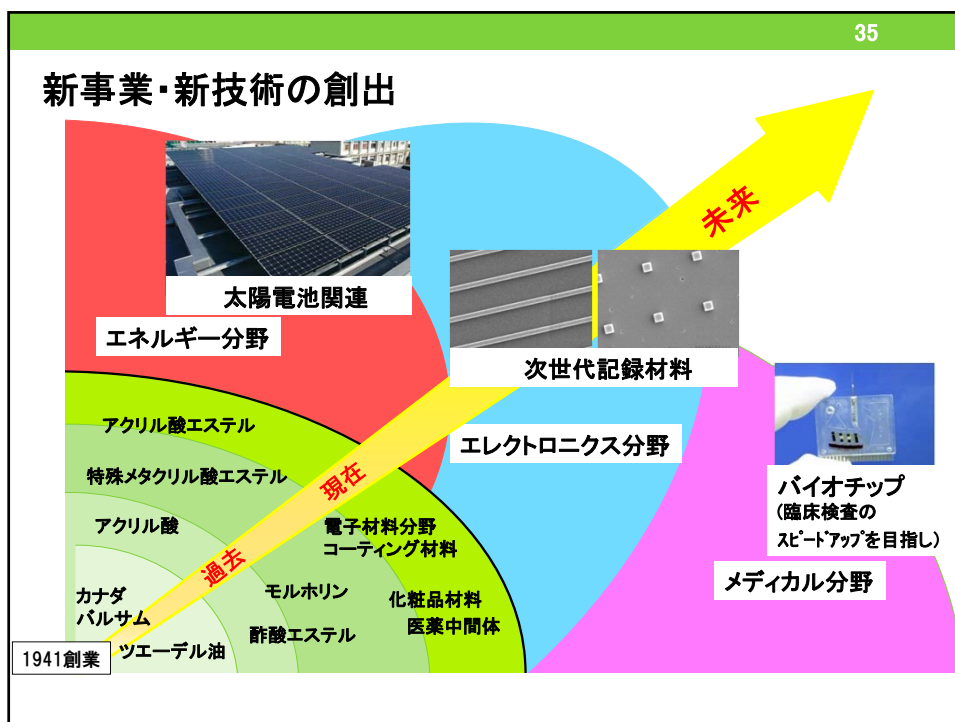
兵庫県立大学
大学院工学研究科
物質系工学専攻 川月教授

アクリル化技術と光配向技術を駆使した新しい光配向性材料の開発に成功

従来材料の課題	開発材料
- 高分子フィルムの延伸配向では、配向方向に制約 - 配向膜による液晶分子の配向法は、作成プロセス複雑 - 光と熱による液晶性 桂皮酸ポリマーの配向法 材料構造の自由度低い	配向方向の制約が無く 自由度の高い 塗布プロセス可能



材料分子の向きをそろえる=配向



36



大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.
のびゆく力、未来へ

本資料の予想数値等は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の内容と異なる場合があります。したがって、いかなる確約や保証を行うものではありません。

37

ご参考資料1 比較連結貸借対照表

(百万円)

	'10/11末	'11/05末	増減	備考
資産合計	28,912	30,181	1,269	
流動資産	14,733	16,241	1,508	現金、預金、有価証券の増加
有形固定資産	9,766	9,476	△290	有形固定資産の減少
投資その他の資産	4,397	4,435	38	
負債合計	9,226	8,774	△452	
流動負債	6,447	6,042	△405	未払金の減少、未払法人税等の減少
固定負債	2,778	2,731	△47	
純資産合計	19,686	21,407	1,721	増資による資本金、資本剰余金、利益剰余金の増加
少数株主持分	158	184	26	
負債純資産合計	28,912	30,181	1,269	

38

ご参考資料2 キャッシュ・フロー(連結)

(百万円)

項目	'10/05末	'11/05末	備考
営業活動による キャッシュフロー	1,870	988	減価償却費および法人税等の支払
投資活動による キャッシュフロー	△1,048	△2,269	有価証券取得、有形固定資産取得による 支出
財務活動による キャッシュフロー	659	926	長期借入による収入
現金及び現金同等物の 増加額	1,481	△355	
現金及び現金同等物の 期首残高	2,293	3,711	
現金及び現金同等物の 期末残高	3,774	3,355	